

# 7月市長定例記者発表要旨

と き 平成28年7月4日（月） 11時～12時

ところ 庁議室

## 1 「祖母傾ユネスコエコパーク」登録に関する取組について

「祖母傾ユネスコエコパーク」登録に向けての取組については、これまで大分・宮崎両県の推進協議会を中心に活動を進めてまいりました。お配りしている資料に、エコパークの概要などについて記載していますが、これまでの経過や今後の取組などについてご説明いたします。

### (1) これまでの経過

資料の5ページに、経過について簡単に記載しています。

平成26年2月、大分県、竹田市、豊後大野市及び佐伯市で構成する「大分県祖母傾ユネスコエコパーク推進協議会」が発足。同年12月には宮崎県、延岡市、日之影町及び高千穂町で構成する「宮崎県祖母傾ユネスコエコパーク推進協議会」が発足し、両県での取組が始まりました。

平成27年2月には、両県相互の連携を強化するため「祖母傾ユネスコエコパーク大分・宮崎推進協議会」を設立。同年8月に日本ユネスコ国内委員会あてに「申請書概要」を、本年2月には「申請書本文」を提出しました。今後は、本年秋に予定されている国内推薦地域の決定に向け、両県6市町が協力しながら、地域内の多面的なイベント等の開催を通じて機運の醸成や情報発信の強化を図り、国内委員会での決定を後押ししていきます。

この国内推薦地域に選ばれると、日本ユネスコ委員会がユネスコに登録申請を行い、来年夏の「ユネスコ MAB（人間と生物圏）計画国際調整理事会」において登録地として決定されれば、「祖母傾ユネスコエコパーク」が正式に登録されることとなります。

### (2) 佐伯地域としての取組

#### (ア) 推進体制

佐伯地域では、6月15日、関係6市町の中で初めて「佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会」を設立しました。これは、エコパーク登録の推進はもとより、登録決定後の利活用について調査・検討を進めることを目的としています。

協議会のメンバーは、資料の9ページのとおりです。

#### (イ) 具体的な取組

「佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会」の事業計画は、資料の10ページに掲載しています。

6月17日には、「第1回次世代育成事業」として、宇目緑豊小学校の4年生22人が参加し、藤河内溪谷での生物調査を行いました。講師に、佐伯市自然環境調査研究会会長の真柴ましば茂彦しげひこさんと同副会長の武石宣彰たけいしのりあきさんをお招きし、藤河内溪谷に生息する植物・鳥類を調査しました。

また、7月16日、17日の2日間、「第2回次世代育成事業」として、宇目出身の世界的アルピニストである戸高<sup>とだかまさふみ</sup>雅史さんをコーディネーターに、宇目緑豊中学校の全校生徒53人が参加して1泊2日の自然体感キャンプを行うなど、今後、様々な行事を計画しています。

「祖母傾ユネスコエコパーク」に登録されることは、「自然と人間社会の共生のモデル」となることです。豊かな自然や文化を持つ佐伯地域が、このようなモデル地域として発展していけるよう、まずは来年夏の登録実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

## 2 姉妹都市締結20周年記念「グラッドストーン市訪問」について

本市は、平成8年9月にオーストラリアのグラッドストーン市と姉妹都市の締結を行い、今年で20周年となります。5月30日付けで、グラッドストーン市のマット・バーネット市長から招待状が届き、8月3日から9日まで、私や井野上市議会議長ほか4人の計6人で同市を訪問することとなりました。

記念訪問は5年に1回交互に実施されており、私自身は10年ぶりの訪問となります。昨年の市制施行10周年記念式典への出席に対するお礼を再度申し上げるとともに、国際交流に対しての私の思いを直接お伝えしたいと考えているところです。

滞在中のスケジュールにつきましては、現在グラッドストーン市側が調整しておりますが、市長表敬訪問、グラッドストーン美術館訪問などが行われるものと思われまます。

なお、今回の記念訪問に合わせ、両市民間の交流事業として1年おきに実施している「姉妹都市グラッドストーンを知る旅」も同じ日程で実施いたします。中学生6人、高校生1人の計7人の申込みがあり、現地では、オーストラリアの暮らしを体験するホームステイなどを行うことになっています。